

令和4年度 第5回協働のまちづくり推進委員会 会議録

日時	令和5年3月22日（水）13:30～16:00
場所	すこやかセンター2階会議室1
出席委員	小出会長、清水副会長、小川副会長、新委員、岩澤委員、岡委員 川野委員、石井委員
欠席委員	秋葉委員、高谷委員、柳田委員
事務局	市民活動推進課 林田課長、佐藤副主幹、大木、森久保
傍聴者	無

[会議次第]

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

- (1) 第2次富里市協働のまちづくり推進計画の取組についての総括意見（案）について
- (2) その他

4 そ の 他

- (1) 実施事業について
- (2) とみさと市民活動サポートセンターについて
- (3) その他

5 閉 会

[会議概要]

	<p>次第3 議題</p> <p>－「協働のまちづくり推進委員会の運営に関する要綱」第3条第1項により、小出会長が議事の進行を務める－</p> <p>(1) 第2次富里市協働のまちづくり推進計画の取組についての総括意見(案)について</p>
会長	<p>議題(1) 第2次富里市協働のまちづくり推進計画の取組についての総括意見について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>－事務局より説明－</p>
会長	<p>ただ今、事務局から説明がございました。 何か質問等はございますか。 御発言される場合は、挙手願います。</p>
A委員	<p>書き方の部分では、分かりやすく1文ずつ分けているが、内容ごとに段落をまとめたほうがいい。 文化財関連の段落、次に第2次富里市協働のまちづくり推進計画の段落、感謝状贈呈にかかる段落、残りは分けてある段落のとおりとして、6段落としたらどうか。</p> <p>－委員賛同－</p>
会長	<p>補足だが、市民活動の醸成からの段落は「平成のまちづくり」から「令和のまちづくり」へという意味合いを込めている。</p>
A委員	<p>内容的な部分で「行政を補完するもの」の部分で、「行政と共にその価値を高めていくものであり」にしたらどうか。</p> <p>－委員賛同－</p>
B委員	<p>「富里の良さと市民のために頑張る市職員によって市民目線に立った協働のまちづくりが進められています。」と一文あるが、ここだけだと自画自賛のように見えてしまうので、どこかにつなげて書</p>

<p>会長</p>	<p>いたらどうか。</p> <p>この部分に「市職員」を入れたのは、他の自治体よりも意識が高いと個人的には評価していて、市民とともに評価したい部分であった。</p>
<p>C委員</p>	<p>「ブラッシュアップ」という表現については、使い方としてはいいと思うが、すべての方が理解できるのか。</p>
<p>B委員</p>	<p>括弧をして和訳を載せたらどうか。</p> <p>—委員賛同—</p>
<p>D委員</p>	<p>行政は自治会に対して指導ができるのか。</p> <p>市は頑張っているけど、協働を支えているのは自治会だと思う。</p> <p>後継者問題などの課題を抱えているところが多い。そういった部分で行政は足を運び、支援やサポートをしていくことが必要ではないか。</p> <p>なので、ここでも自治会のことをもう少し持ち上げてほしい。</p>
<p>会長</p>	<p>自治会は市民活動の基盤と考える。</p> <p>なので、この部分については地域づくり協議会の部分で取り上げていかなければいけないと思う。</p> <p>自治会には、うまく運営できているところとそうでないところもあり、その格差が広がっていかないようにしなければいけない。</p> <p>他の自治体では、そこに専属の職員を配置しているところもある。自治会の課題をどう吸い上げていくのか、「令和のまちづくり」の大きな課題である。</p> <p>行政側でもその問題については承知していると思う。</p>
<p>E委員</p>	<p>自身の住む地域の自治会の活動については、あまり活動がなく、役員も持ち回りとなっており、そこに対しても現状では問題なく運用ができているため、後継者に悩む自治会に対してのイメージが、ぴんときないが、PTAの現状と似ている。</p> <p>面倒くさい、大変などの悪いイメージがあって、やりたくないという意識につながってしまっていると思う。それは自治会も同じで</p>

A委員	<p>はないか。</p> <p>無くなったらどうなるのかという想像ができないため、無くなったら、こんな困りごとが出てくるというような、情報の共有が必要。</p> <p>今の話は重要なことだと思うので、どこに入れるかだが、総括の部分についてはこの期間にやったことの話になると思う。</p> <p>そうなるこの期間では十分な議論ができなかったため、次に向けて取り組んでほしいという提案だと思うので、第1節の活動の醸成支援の部分のどこかになるのか、または他の部分になるのか、計画とすり合わせながら検討する必要がある。</p>
会長	<p>自治会というワードはきちんと入れないといけないのでは。</p>
事務局	<p>自治会については行政パートナーという名称で、115団体ある。自治会については大小あり、それらをまとめている区長会というものがある。区長会を通した形で、自治会に落としていく。</p> <p>なので、区長会というワードを使わせていただければ。</p>
D委員	<p>何をしているかが見えてこない。自治会の問題は、区長会で取り上げるべき内容ではないか。</p>
事務局	<p>今年度は、自治会活動に尽力されている区長さんへインタビューを実施し、それらをまとめた冊子を作成した。それを各地区へ配布した。</p> <p>現在の区長会の在り方も見直そうとしている。分からなかった部分や伝わらなかった部分を変えていこうとしている。コロナ禍を経て、中に目を向けて、それぞれの頑張りに焦点を当てている。</p> <p>変革の時期であると思うので、自治会同士のコミュニケーションがもっと図れるようにしていければ。</p>
会長	<p>区長会でやったことなどを回覧板などでお知らせはできるのか。</p>
事務局	<p>区長会として作成したものを、昨年12月とこの3月で回している。</p>
B委員	<p>この委員会で、どういうテーマで取り上げてもらいたいのか。</p>

D委員	<p>計画でも、市の職員が地域に出向き、話を聞いて、課題を関係する部署へ届けるというような横断的なものやっているとある。実際に来てもらったこともあるが、共有されているかというところではないこともある。</p> <p>うまくフィードバックされてこないのが現状なので、そういった部分がもう少しクリアになるといい。</p> <p>また自治会活動でもそうだが、まちづくりというものは、すでに各地域で取り組んでいるもの。どういうことがまちづくりなのか、それらを改めて伝えるという意味でも、各自治会へ足を運ぶべきではないか。</p>
会長	<p>区長会の部分についての議論は、次の年度にバトンタッチしていくことでいいか。</p> <p>—委員賛同—</p>
B委員	<p>ボランティア手帳についての意見は、内容が何年も同じ傾向である。このまま書いてしまうと、また同じことになってしまう。</p> <p>なので、極端に言えば大人はやめて、子ども達に焦点を当てる。子ども達に特化して考えるというような内容にして、可能性のある部分を取り出して考えてみてはどうか。</p>
E委員	<p>子どもに絞るという考えは良いと思う。広く捉えても、曖昧になってしまう。「子ども」とうたえば、子どもは見る。「子どもから大人まで」とあると、見ない。対象が絞れていると、それに興味のある子は、必ず注目する。また、対象が子どもに絞れていても、興味のある大人は、やりたい気持ちがあれば聞いてくると思う。</p>
会長	<p>絞るにしても、運用の仕方も併せて考えていく必要がある。</p>
F委員	<p>子どもに焦点を当てることも大事だとは思いますが、老若男女、皆さんが持つことが大事ではないか。子どもに関しては、学校とタイアップしたらどうか。</p> <p>また団体に手帳を預けて、来た方へ渡してもらうなどの運用も方法である。</p> <p>感謝の気持ちをどう伝えていくかは、今後の課題。</p>

	<p>他市では、企業と連携して、ポイントに換算されることもある。</p>
B 委員	<p>現状で1名しか終了していないということは魅力がないということ。理想論で同じテーマをいつまでも掲げて、できませんでしたを繰り返すのであれば、荒療治かもしれないが、できることを狭めてやるようにしたほうが、やりがいも出てくるのではないか。</p>
F 委員	<p>できなかった原因を明確にすることからではないか。</p>
会長	<p>市民活動団体の長からまず理解を求め、必要な人を手繰り寄せていくなどしていかなければいけない。ここに関してはもう一度議論したほうがいい。</p>
E 委員	<p>子どもに絞ってという意見は、入り口の話であり、最初の入り口はなるべく絞ったほうがいいのではないかとということ。 受け皿はちゃんと整えておく前提で、老若男女すべてに興味を持ってもらうために、まずは子どもからということ。</p>
F 委員	<p>富里市でも、活動者の方は高齢者がほとんど。ボランティアをすることによって、生き活きとできるという部分もある。 課題は配付の仕方、広報の仕方、そういったところだと思う。</p>
E 委員	<p>区別はしたほうがいい。 ボランティアをしましようという押しつけのようになってしまおう。考え方や捉え方は人それぞれだと思うので、やりたいと思った人がやりたいと思ったところに参加できればいい。</p>
F 委員	<p>定義は何であったのか、根本に戻らなければいけないのでは。</p>
会長	<p>今回については、活用方法など根本的に見直すというような形にして、載せるということでもいいか。</p> <p>—委員賛同—</p>
会長	<p>委員の中での「外国人の枠」という表現があるが、公募ではなく、地域コミュニティ関係者のような扱いで、枠を設けるということ</p>

	か。
B委員	そうである。
会長	公募委員の中にいけばいいが、特別に枠を設けるのはどうなのかなという疑問がある。
B委員	現在の公募委員の応募スタイルだと、ハードルが高い。
会長	<p>それであれば枠を設けてまでということではなく、外国人の意見にも耳を傾けていくというシステムを考えていくほうがいいのではないか。</p> <p>多文化共生については計画にも入っているので、そういった視点は盛り込んである。</p>
B委員	<p>協働に関すること全体では意見など出ないし、難しい。</p> <p>わかる部分で意見をもらうことだけでも有益ではないか。</p>
A委員	<p>趣旨は分かる。空港周辺や北総エリアは外国人も増えてきており、その人達の意見を協働のまちづくりへ反映させていく、外国人を参画の主体として位置付けていくことは重要なことで、賛成である。ただ、枠を設けてという部分は表現としては強いと思うのと、外国人は何人を指しているのかという部分もあるので、形に関してはまだ議論していないので、方向性としては賛同を得られれば意見を入れていくという形がいいのではないか。</p>
D委員	協働というワードは日本だけではないか。
会長	<p>外国人の視点を入れていく検討を始めてはどうかぐらいの言い方にしたほうがいいのではないか。意見を聞くとなると難しい部分もある。会議の進行にも影響する。外国人から意見をどう吸い上げるかは検討事項として、委員として入れるには時期尚早と考える。</p>
G委員	外国人という部分に少し違和感を感じるので、海外から見た視点でというのはどうか。

F 委員	<p>富里市には様々な外国人が居住していると思う。日本語に長けている方もいるとは思いますが、そうでない方も、異国の地でも輪に入りたいという思いもあるのではないかと。そこでイベントなどで、交流を図った上で、推進していることを知ってもらうことがスタートではないかと。</p>
B 委員	<p>意見として出した趣旨は、国際交流協会などの団体から、委員を出してもらうイメージであった。</p> <p>外国の方達の視点を入れていくことは、今後の外国人の人口増加の点も考慮すると、無視できない部分だと思う。</p>
会長	<p>今後は関係する団体などの意見聞きながら、もう少し議論しませんか。なので、もう少し表現を変えた形で載せるということではないかと。</p> <p>—委員賛同—</p>
会長	<p>第2節に移ります。</p> <p>とみさとファンクラブの部分についての意見を委員会として取り扱うのか。</p>
B 委員	<p>そもそもファンクラブとは。</p>
事務局	<p>広報情報課が所管している事業であって、関係人口や交流人口を増やす目的で実施しているもの。現在では4,300人くらいの登録があり、富里に関わる情報や特典を受けられる恩恵がある。</p>
B 委員	<p>市外の方のほうが多いのか。</p>
事務局	<p>多い。スイカロードレースに参加した方などが主な登録者である。富里の情報をその方々からも発信してもらい、魅力発信に協力してもらう仕組みである。</p>
会長	<p>取扱いについてどうするか。</p>
事務局	<p>実行計画に入っているため、記載があってもいいと考える。</p>



	改訂の時に、新しく追加した部分である。
会長	それであれば問題ない。
E 委員	協働専用情報発信ツールについては、Facebook、Instagram、メールマガジン、Youtube などが記載されているが、これは今どういった形で運用がされているのか。
事務局	メールマガジンについては、助成金情報などを主に発信しており、登録制としている。
E 委員	発信ツールは個々に発信されているのか。
事務局	これらについては、市公式HPを補完する形で運用されており、各課でそれぞれ情報を発信している。Youtube については、広報情報課が管理しているので、そこに一元的に集約して発信するほうがいいと考える。 HPだと情報を発信するのに時間がかかり、速報性がない。そういうところを補完するために、各課で内規を決めてSNSを運用している。 SNSについても使い方を工夫して、情報発信に努めている。
E 委員	情報がいろいろあると分かりづらいと思い、ひとつのところから枝分かれしていったら、見やすくなるのでは。
事務局	HPでは、それぞれの課で運用するSNSにアクセスできるようになっているが、課をまたぐような運用にはなっていないのが現状である。
会長	当委員会の前会長がSNSに精通していて、情報発信には力を入れていた。情報発信ツールとしては、だいぶ広がってきていると思う。
事務局	もともとは広報だけであり、それだけでは速報性がなく、HPなどもブラッシュアップを繰り返している。その上でさらに情報を届けるために、SNSを活用している。一説には、インターネットや

E 委員	<p>SNSよりも口コミがいいということもあるが、いろいろな手法を使いながら、情報発信に努めている。</p> <p>それぞれのところからHPを通して、ひとつの情報が取れるような導線ができるといい。</p>
会長	<p>協働専用情報発信ツールの部分の意見は、もう少しコンパクトに意見をまとめる形でいいか。</p> <p>—委員賛同—</p>
会長	<p>区長会や自治会に関しては、どこかに入れて、今後検討していくような形で載せるかどうか。</p>
D 委員	<p>協働と自治会は密接。地域づくり協議会に関しては、各地区の区長や班長がいるため、そこで市民活動推進課の職員を交えて、意見交換などができるといい。いくら行政が協働を押し進めようとしても、こちら側の準備ができていない。協働を進める上での連携、協力が必要。</p>
会長	<p>自治会内の地域で課題を持ち寄り、立ち上がった団体もあるので、そういった点も踏まえても、まちづくりには欠かせない。</p>
A 委員	<p>どこに入れるのかという部分では、第1節の地域づくり協議会の部分で、「地域づくり協議会を通じて、区長や自治会長へ協働のまちづくりの理解を図っていく。」という文言を足す、または区長会という組織が推進計画の中で位置づく部分があればそこに入れる。このどちらかではないか。</p>
会長	<p>A委員の意見のとおり、地域づくり協議会の部分で触れる形でいいか。</p>
B 委員	<p>この部分に関連して、地域づくり協議会というものは実際あるのか。</p>
事務局	<p>各まちづくり協議会でそれぞれ名称がある。これらを対象にした</p>

<p>会長</p>	<p>地域づくり協議会事業補助金というものがあり、そこで総称して地域づくり協議会としている。小学校区単位のネットワーク組織であり、まちづくり協議会を指すものと同じである。</p> <p>市民活動支援補助金の申請の中でも、自治会活動でも取れるような内容もある。採択には至らなかったが、精査できるような条件も検討する必要があるのでは。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局としては、自治会の活動とは別に行われる自主的な活動で、課題を解決するためのものであるとして申請を受け付けた。</p> <p>その上で審査の段階で、公益性という部分では欠けているので、採択に至らなかったと認識している。</p>
<p>D委員</p>	<p>自治会そのものが動いているわけではなく、困った方々のために何かをするため立ち上がった有志の方々もいる。後継者不足に悩む自治会はそういったことも踏まえて、中を変えていかなければいけない。</p>
<p>会長</p>	<p>当委員会の中で、今まで自治会にスポットがいかなかったことは反省点でもある。10年間やってきて、見えてきたこともある。自治会の問題についても次期委員会で取り上げて議論する必要があるとすれば、意見を聞きながらやることも検討したらどうか。掘下げなければいけない課題も同様である。</p>
<p>A委員</p>	<p>自治会の方々に、この協働のまちづくりというものがうまく伝わっていないということが議論のテーマだと思うので、ここでは第2節の冒頭の終わりに、「～周知できるようにしたら良いと思います。」の部分に改めて、計画に沿った形で、「市民、地縁による団体、市民活動団体、事業者、市」をすべて書いたらどうか。担当課は努力されているが、他の課はなかなか理解が進んでいないという点も考えると、対象をすべて書くことがいいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>今のような形でよろしいか。</p> <p>—委員賛同—</p>

会長	それでは3節の部分ではどうか。
B委員	<p>『「協働」というワードを、市民の方が具体的にはっきりイメージできるように、明るい未来が想像でき、自分ごととして身近にあるものをイメージさせられるような名称をつけ、発信していく〜』とあるが、名称を付けたから「協働」が浸透していくわけではない。働きかけが重要である。名称にこだわらずに、協働のイメージアップのために、いろいろな団体や場所に足を運んでアピールするなど、そちらのほうに力を注いだほうが良い。</p> <p>各課にも協働の委員がいると思うので、上手く連携して、所管する団体と協働の普及を図るほうが有効ではないか。</p>
会長	<p>協働や市民活動という部分では、市民活動推進課が上に立っている形か。</p> <p>そうである。各課には1名協働推進員を配置している。</p> <p>委員の意見にもあるように、庁内においても、協働という部分では浸透しているようで、浸透できていない。なので再浸透させていたきたいという意見だと思うので、協働と言う言葉はそのままにして、協働とはどういうことかという部分について、浸透を図っていくとう意見でよろしいか。</p>
B委員	それで良い。
会長	円卓会議の部分についてはどうか。
事務局	円卓会議については、何をテーマやキーワードにするか、その部分の抽出が進んでいないので、思うように推進ができていないのが現状。推進の方法を検討する必要がある。
会長	取り上げるテーマに沿った課題を持ち寄って、解決策を探っていくようなイメージか。予算などはどうするか。
事務局	予算という部分よりは、人的な部分のほうが大きい。
A委員	推進が今一つ進んでいないという部分は載せて、その推進の方法

<p>会長</p>	<p>を検討していくくらいの形でどうか。今の記載も残すのであれば、はじめから地域課題を持ち寄るなどという表記を間に挟むのもいいと思う。</p> <p>円卓会議と言うワードについては魅力があるので、取組を少しずつ具体化できるように進めてもらえれば。</p> <p>－その他意見、質問なし－</p> <p>議題（２）その他</p> <p>議題（２）その他について、委員の皆様から何かございますか。御発言される場合は、挙手願います。</p>
<p>D委員</p>	<p>若者プロジェクトチームの活動については、もう少し発展性を持たせた方が良く。とてもいい取組をしているので、成果を出して終わってしまうのはもったいない。持続性も考えていけるといい。</p>
<p>会長</p>	<p>次期委員会でも、活動者が発展していけるような、評価という部分を検討していただければ。</p> <p>他に意見はありますか。</p> <p>－その他意見、質問なし－</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にないようであれば、これで、議題が終了いたしましたので、進行を事務局へお返しいたします。</p> <p>次第４ その他  (１) 実施事業について  【団体交流会】  【とみさと協働塾（第２回）】  【とみさぽニュースレターVol. 28】</p>
<p>事務局</p>	<p>－以上を事務局より説明－</p>

事務局	<p>それでは、事務局からの説明について、質疑などございましたら、お願いします。</p> <p>－その他意見、質問なし－</p> <p>(2) とみさと市民活動サポートセンターについて  <b>【とみさと市民活動サポートセンターの利用状況について (報告)】</b></p> <p><b>【相談・問い合わせ対応記録について (報告)】</b></p>
事務局	<p>－実績表により説明－</p>
事務局	<p>それでは、事務局からの説明について質疑などございましたら、お願いします。</p> <p>－その他意見、質問なし－</p>
A委員	<p>毎回この報告をいただいているが、まちづくりコーディネーターについては、サポートセンターの仕事と、アウトリーチの部分での関わりが大きいと思う。富里市はコーディネーターがよく外に出ていると思う。そういった部分の実績も分かるようになる資料があるといい。</p>
事務局	<p>次回のコーディネーター会議で共有させていただき、検討していく。</p>
事務局	<p>(3) その他  委員の皆様から何かございますでしょうか。</p>
B委員	<p>－小川委員から消費者行政推進連絡協議会の報告－</p> <p>－その他意見、質問なし－</p> <p style="text-align: center;">(閉会)</p>